

3・2・1年生・大学院生諸君！

発行日が 12 月なので若干気が早いですが、「新年あけましておめでとうございます！」 今年はいよいよ君たちの年です。この 1 年間教員採用選考の準備を全力で頑張って、来年の 4 月には正規教員として教壇に立ってください。去る 12 月 1 日に、私がこれまでに教員採用選考の指導をした仲間を集めて祝勝会をしました。東京理科大学（の卒業生）、武蔵野大学、法政大学と 3 つの大学の学生や卒業生が、楽しく情報交換をしました。私が教員採用選考の指導に初めて関わったのは 5 年前です。それから毎年夏に OB 会、冬に祝勝会を実施しています。各自治体の中学校や高校に教員として飛び立っていった卒業生が一堂に会し、近況を話したり、後輩の悩みに答えたりしているのを見るのが、私の楽しみです。君たちも来年は是非とも合格し、祝勝会の主役として参加してください。大いに期待しています！

【最近実施した行事と今後実施予定の行事】

- 1 「学習指導要領講習」4 回×2 11/27(月)～12/20(水) 月水同内容 参加者 24 人
新学習指導要領のキーワード、学習指導要領の変遷、数学科の学習指導要領等について講習を行いました。
 - 2 「合格者祝勝会」12/1(金) 参加者 16 人 於：恵比寿
1 次会は、しゃれたお店。2 次会は、カラオケでストレスを解消しました。(みんな歌うまいな)
 - 3 「教員採用選考説明会(東京都、埼玉県)」12/9(土) 参加者 49 人
各自治体の説明者が元教員だったので、採用選考の説明だけでなく学校での生徒や教員の様子、教職の意義なども話してくださいました。先輩教員を囲む会のような雰囲気でもっともいいお話でした。
 - 4 「合格者体験談を聞く会」12/9(土) 参加者 49 人 発表者 5 人
 - 5 「面接試験講習会」及び「個人面接練習・集団討論練習・場面指導練習」「模擬授業」
2 月と 3 月と 7 月に実施する予定です。参加者の日程調整は、1 月に行います。
- ★なお、論文の添削指導は、11 月 15 日の「合格論文書き方講習」を受講した諸君を対象に毎日行っています。みんな熱心なので、採用試験が楽しみです。既に一人平均 5～6 回書いています。

**【数学コーナー】今回は、円周率 π についての雑学です。**

- ★ 以前、小学校の学習指導要領で「円周率は、およそ 3」になったとマスコミで話題になったことがありました。でも、これは誤解です。よく読めば「円周率は 3.14 とする」と書いてあります。大切なことは、上から一方的に 3.14 を押し付けるのではなく、子ども自身に考えさせるため、「およそ 3」から始めようということなのです。例えば、校庭に大きな円を描いて、子どもたちが円周上と直径上に立ちます。それぞれ人数を数えたら、円周上の人数が直径上の人数のおよそ 3 倍だった。だから、「円周率は、3 ではないか」とする。すると、「先生！手の長い子がいたり、背の高さにも差があったりするから、3 とするのはザックリし過ぎじゃね」という声が出ます。「それなら、茶筒のような円柱の周と直径を巻き尺できちんと測ってみよう」と指導します。すると、「ピッタリ 3 倍じゃないみたい」となる。この先は、子どもの実態に応じて 3.14 まで導きます。算数が得意な子どもなら、数学史との関連で、四分円の面積の多角形近似から π が求められることを教えてもいいでしょう。高校生なら、マシンの公式を教えたら如何ですか。そもそも、 π は 3.14 に等しくないですから。
- ★ π の覚え方：3.14159265 358979 3238462 6433 83279 (小数点以下第 30 位まで)
産医師異国に向こう 産後やなく 産婦みやしろに 虫さんざん 闇に泣く

教員志望の3年生, 2年生, 1年生, 大学院生諸君!

平成29年12月18日

教職課程センター小金井相談室

《教員のライフステージ》

★ 教員として採用された後の人生は、どうなっていくのでしょうか。私立学校の場合は、ごくまれに副校長や校長になることもあります。一般的には教員のままで定年を迎えることが多いです。国立学校の先生は将来、大学の先生になる人が多いようです。

★ 他県も数年後には同じようになると思われるので、東京都公立学校の場合で考えてみましょう。新規採用以降、初任者研修→若手教員研修→10年目研修と年々研修を重ねていきます。30歳になると「主任教諭」選考があります。試験は論文と面接です。論・例・策と面接極意書があれば、全く問題なく合格します。合格すると、校務分掌の主任を担当できます。給料も上がります。だから、ほとんどの先生が受験します。

★ 40 歳位になると「主幹教諭」「指導教諭」選考があります。合格すると給料が上が
り、前者は校務分掌主任を必ず担当します。将来管理職を目指す人もいます。後者は授業
のフロとして校内はもちろん他校の先生にも授業を見せ、指導することになります。これ
らの試験を受験せずに主任教諭や教諭のままという人も多いです。要は、本人次第です。

★ その後、「教育管理職」「副校長」になる管理職選考があります。教育管理職というのは、教育委員会で仕事をする指導主事などです。いずれも、その後校長選考を受けて、合格すれば校長です。校長になれば、論文のまとめで書いた理想の学校を実現できます。

★ 私は指導主事7年、副校長2年、校長10年経験しました。その経験から得た管理職に求められるものを図にしました。皆さんにも、是非将来は校長になってほしいです。そのためには、教員として今日の前にいる生徒に全力投球することが極めて大切です。

《校長・副校長に求められるもの》

